

集中して授業に参加できるように

— イラストカードを使った支援を通して —

こんな子たちです (小学校2年生)

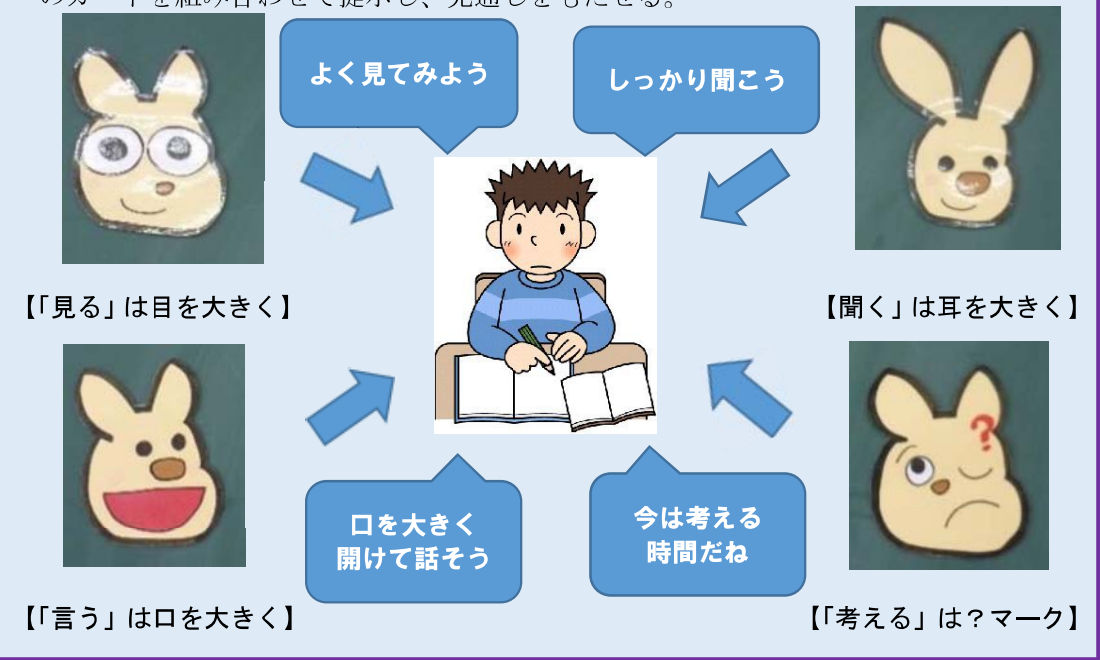
- ・すぐに注意がそれてしまい、学習に集中できないことが多い。
- ・授業中に何をしようか分からず、すぐに取り組むことができないことが多い。

通常の学級での取組

●授業に集中させる取組

イラストカードを生かす

- ・自作のキャラクター (ミルキーカンガルー) のイラストカードを場面に応じて提示し、「見る」「聞く」「言う」「考える」等、どの活動か分かるようにする。また、時計のカードを組み合わせて提示し、見通しをもたせる。



通級指導教室等での取組

●授業に集中させる工夫

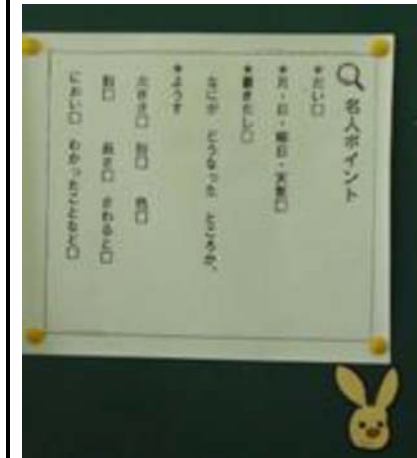
イラストカードの活用

- ・学習活動中にイラストカード等を提示し、視覚的に授業の場面を知らせる。また、学習活動の「始まり」と「終わり」を時間のカードで具体的に伝える。

成果

イラストカードを生かした実践

- ・説明している内容の近くに「聞く」のイラストカードを提示することにより、集中して聞く子どもが増えた。



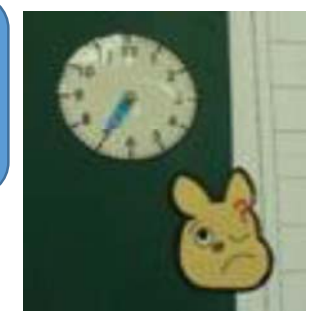
イラストカードを貼って  
「名人ポイントについて確認します。  
今からはこの時間です。なんだったかな？」

聞く時間だ。  
しっかり聞こう。



【イラストカードの提示】

- ・「時計」のカードと「見る」「聞く」「言う」「考える」のイラストカードを組み合わせ提示することにより、見通しをもって取り組む姿が見られた。



【「始まり」を提示】

【「終わり」を提示】

ポイント

- ★あいまいな状況が苦手な、授業中、何をしたらよいか分からない子どもに対して、活動場面が分かるイラストカードを活用することで、子ども自身が今何をすべきか意識でき、授業や課題に集中できるようになる。

見通しをもって授業に取り組むことができるように

— ホワイトボードやハンドサインを活用した支援を通して —

### こんな子たちです（小学校2年生）

- ・学習中、「〇ページを開いて」「めあてを書きます」といった指示が聞けず、取りかかりが遅れることが多い。
- ・教師が全体への指示を出した後に「今、〇〇をするの」と尋ねてくるのが頻繁にあり、すべきことが分かっていない様子や、自信をもって取り組めない様子が見られることが多い。
- ・体育の集合や始業終業のあいさつなど日常的に行っていることでも、周囲の様子を見ながら行動していることが多い。

何をすればよいのかな？



### 通級指導教室等での取組

- 活動の見通しをもたせる工夫  
**ホワイトボードの活用**
  - ・ホワイトボードを使って活動の流れが分かるようにする。
  - ・一日の生活や授業の流れのパターンを決めて取り組む。



【一日の流れを示した  
ホワイトボード】

- ハンドサインの活用**
  - ・指示内容を見て次の行動が分かるようにする。

### 通常の学級での取組

- 活動の見通しをもたせる取組  
**ホワイトボードを生かす**
  - ・今何をするのが分かるように、「書く」「読む」「聞く」「発表する」といったカードを、ホワイトボードに貼り、いつでも確認できるようにする。
  - ・授業以外（朝礼の移動、給食の準備中の動き等）では、活動することを手順書としてホワイトボードに貼る。

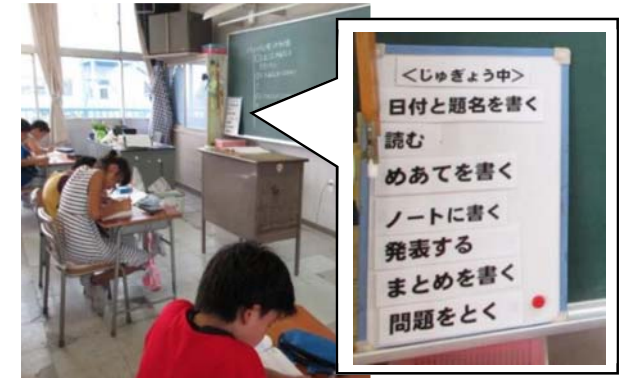
### ハンドサインを生かす

- ・指示の内容をハンドサインで表す。
- ・静かにするときや整列するときのハンドサインを決め、学級で共有する。

### 成果

#### ホワイトボードを生かした実践

- ・ホワイトボードが、いつでも見えるところにあるため、学習活動の取りかかりが早くなり、自分が何をすればよいか迷わずに活動することができてきた。
- ・ホワイトボードがあることで「めあてを書く」など見通しがもてるため、素早く取り組めるようになってきた。また、板書を書き写すことも速くなってきた。
- ・活動が変わるときには、ホワイトボード上のマグネットを動かすことにより、今、どの活動をしているのか、確認することができ、迷うことなく取り組むことができた。
- ・給食の準備や朝礼時の体育館への移動もホワイトボードと同様に手順書として提示することで、自分で行動することができるようになり、何をするのかと尋ねてくることが減った。



【授業の流れを示したホワイトボード】

#### ハンドサインを生かした実践

- ・体育や音楽などで教室から移動するとき、ハンドサインで指示を出した。それにより、児童が視覚的に捉えることができ、係が大きな声で「並んでください」と言わなくても、整列や移動がスムーズにできるようになった。
- ・回数を重ねて習慣化することで、自分たちだけで静かに整列したり、移動したりできるようになった。



【ハンドサインで整列】

### ポイント

- ★授業や生活の流れを可視化することにより、子どもは見通しをもつことができ、安心して、落ちついた活動を行うことができる。
- ★ホワイトボードの内容は15分ごとのユニットで行うと、さらに集中力も継続しやすくなる。

## 嫌な気持ちを言葉で伝えることができるように

### — ロールプレイを使った支援を通して —

#### こんな子たちです（小学校5年生）

- ・自分の気持ちを言葉でうまく伝えることができずに、友達とトラブルを起こすことが多い。
- ・些細なことでかっとなり、暴言を言ったり、暴力的になったりすることが多い。

#### 通常の学級での取組

##### ●自分の気持ちを表す取組

##### ロールプレイの手法を生かす

- ・友達とトラブルがあったとき、自分の思いや考えを話し、相手の気持ちを考えることを学ぶ。気持ちが高揚しているときは、落ち着くまで待つ。
- ・落ち着いたら、ロールプレイの手法を生かして、相手の気持ちを考えさせ、自分の行動を振り返るようにする。



#### 通級指導教室等での取組

##### ●自分の気持ちを表す工夫

##### ロールプレイの活用

- ①絵カードを見て、登場人物がどんな気持ちかを考える。
- ②大きなサイコロを転がし、サイコロの表示（A～F）の場面に合わせた台詞を言うゲームをする。



【絵カード】

- A あなたが金魚鉢を落としてしまった時
- B 金魚鉢を落とした子がパニックになってどうしてよいか分からない時
- C 周りの見ている子（金魚鉢を落とした子がかわいそうだと思っている時）
- D 周りの見ている子（金魚鉢を落とした子が悪いと思っている時）
- E 金魚が死にそうになった時
- F ぞうきんが近くにいる時

##### 【サイコロ表示の例】

- ③ロールプレイを通して、言った人と言われた人はどんな気持ちになったかを考える。

#### ロールプレイを生かした実践

- ①友達とけんかをしたとき、かっとなって暴言を言うが、その言葉には反応せず、一定の距離を保ちながらそばにいて、深呼吸させ、落ち着くのを待った。
- ②子どもが落ち着いたら、「相手は、どう思っているのかな」などと声かけをし、相手の気持ちを考えさせ、自分の行動を振り返らせた。

なぜ、トラブルになったのかな。  
相手は、どう思っているのかな。  
どうすればよかったのかな。



- ③起きたことを時系列に沿って思い出させ、自分の言葉で説明させた。また、嫌だと思った理由もトラブルの相手に言葉で伝えさせた。
- ④トラブルの相手の思いも一緒に聞かせ、互いの思いを共有した。
- ⑤どうしても気持ちが収まらなかったときは、あらかじめ決めておいた気持ちが落ち着ける場所に移動した。その場所で過ごす時間を決めて、気持ちが落ち着いたら自分で戻って来られるように促した。

#### 成果

- ・ロールプレイを取り入れた指導を続けることで、かっとなることが減り、落ち着いた気持ちで学校生活を送る場面が増えた。
- ・気持ちを落ち着かせる場所を決めたことで、早い時間で自席に戻って来られるようになった。
- ・多少のことは我慢して待てるようになり、「〇〇君が終わってからでいいよ」などと自分から言えるようになってきた。
- ・我慢できたときには、学級の仲間がそれを認めて受け入れてくれる場面が見られ、本人の気持ちの切り替えも早くなってきた。



#### ポイント

- ★ロールプレイを活動に取り入れることで、自分の気持ちを少しずつ伝えながら、順序立てて説明していくことができ、自分の感情もコントロールできるようになる。
- ★周りの子どもが、興奮をあおるのではなく、援護できるようにするとさらに落ち着いて生活ができるようになる。



落ち着いて生活ができるように

— 具体的なルールや約束を決めた環境づくりの支援を通して —

### こんな子たちです (小学校3年生)

- ・授業中に集中していないときが多く、教師や友達の話を聞き逃してしまうため、活動が遅れることが多い。
- ・自分が用意すべきものや、活動することが分からず、行動が遅れたり、周りと違ったことをしたりすることが多い。



### 通級指導教室等での取組

- 学習環境を整える工夫
- 学習のルールづくりの活用



#### 【置く位置を提示】

- 〈机の上〉教科書、ノート、筆箱のみ
  - 〈机の横〉赤白帽子のみ
  - 〈黒板〉授業で使うもの以外は何も掲示しない
  - 〈掲示物〉必要なものだけ
- ・刺激量を減らすために、前黒板には、必要な物以外は掲示しない。また、子どもの机の周りをすっきりさせた中で学習に取り組ませる。

### 通常の学級での取組

- 学習環境を整える取組

学習や生活のルールづくりを生かす

- ・机の上には、鉛筆1本、赤鉛筆1本、消しゴム、定規を机の右上に用意する。授業のはじめに、教科書とノートを置く位置を隣同士で確認する。



#### 【机の上の様子】

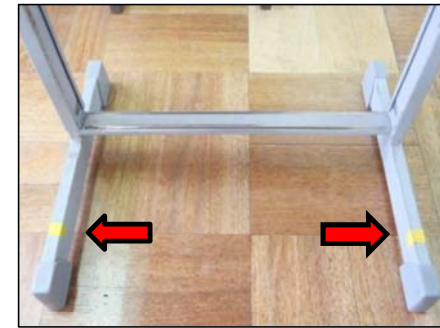
- ・授業に集中できるようにするために、一人一人の机の脚にテープを貼り、椅子の位置が分かる目印をつけ、姿勢が崩れないようにする。
- ・自分の使う掃除道具や片付ける場所に番号をつけ、片付けるときに迷わないようにする。また、整とんされた写真を掲示する。

### 成果

学習や生活のルールづくりを生かした実践

#### ○学習における実践

- ・教室の環境や机の上を整えるルールをつくることで、集中して授業に臨むことができるようになってきた。また、椅子の位置を指定し、椅子をひいて、よい姿勢で授業を受けることで、前を向いて授業に取り組むことができるようになった。



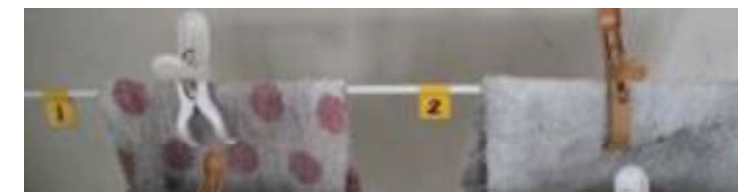
【机の脚にテープ】



【テープの位置にそろえる】

#### ○生活における実践

- ・掃除道具の番号シールがあることで、掃除当番表で自分の番号を確認した後、自分の用具を取りに行けるようになった。また、片付けの際も自分の場所に片付ける習慣が身についた。整とんしてある写真を掲示したことで、写真と同じように整とんしようとする意識が高まった。



【自分の番号がわかる雑巾】

### ポイント

- ★変化に対応することが苦手な子どもに対して、学習や生活に関わるルールや約束を決め、図や写真、手順を書いた表等で視覚的に分かりやすく示すことで、落ち着いて生活し、活動に集中して取り組めるようになる。

忘れ物を減らすことができるように

— 道具箱やファイルを工夫した支援を通して —

### こんな子たちです（小学校2年生）

- ・提出物や宿題の忘れ物が多い。
- ・配付物を机の中に置き忘れ、保護者に届かないことがある。
- ・筆箱やお道具箱の中の整とんができず、必要な物が出せない。

### 通級指導教室等での取組

- 身の回りの整理整とんの工夫

#### 小分けする工夫

- ・道具箱に一回り小さい箱を入れ、ハサミやスティックのりを小分けして入れるようにする。

#### ファイルの工夫

- ・提出物や配付物、宿題を忘れないように、種類ごとに分けた連絡袋を用意し、それぞれの提出場所に別々に集める。



### 通常の学級での取組

- 身の回りの整理整とんの工夫

#### 小分けの仕切り板を生かして

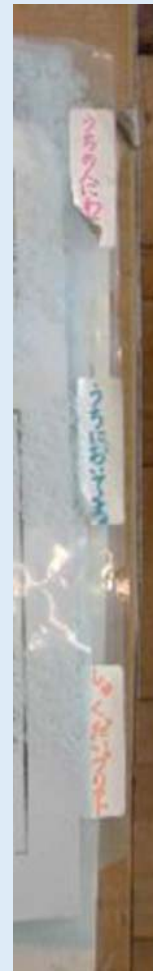
- ・仕切り板で道具箱を整理しやすくして、何をどこに片付けるか明確にする。

#### 仕分けファイルを生かして

- ・「うちの人にわたす」「うちにおいてくる」「しゅくだいプリント」と、3つに分かれたファイルを準備することで、整理しやすくする。



【種類別に分けたファイル】



### 成果

#### 小分けの仕切り板を生かした実践

- ・折り紙や色鉛筆、クレヨンの大きさに合わせて仕切り板をつけ、一週間ごとに道具箱の中を点検した。仕切り板があることで、整とんされている状態が続き、自分で意識して整とんできるようになった。また、配付物等の置き忘れも減った。



【仕切り板がないときの道具箱】



【仕切り板を用いた後の道具箱】

#### 仕分けファイルを生かした実践

- ・はじめは、連絡袋の中身がプリントでいっぱいになり、宿題のプリントもどこにあるのか分からないような状態であった。種類別に分けることができるファイルに入れることで、プリントをなくしたり、宿題を忘れてすることが少なくなった。
- ・ファイルを作ったときに、保護者から、「見やすく、とてもありがたい」という連絡があった。子どもが分けて入れることに慣れ、大切な配付物も届くようになり、連絡もれが少なくなった。同時に忘れ物も減ってきた。



【ファイルに分けて入れる子どもの様子】

### ポイント

- ★整理整とんが苦手で、忘れ物が多い子に対しては、道具箱に仕切りをつけたり、仕分けファイルを活用したりするなど、片付け方や整とんの仕方を明確にすることで、忘れ物を減らすことにつながる。



見通しをもってノートに書くことができるように

— ノートに書き写すポイントを指定する  
板書を工夫した支援を通して —

### こんな子たちです (小学校2年生)

- ・板書を時間内にノートに書き写すことができないことが多い。
- ・板書の内容などを所々抜かして書いていることが多い。

### 通常の学級での取組

#### ●見通しをもってノートに書くための取組

##### 書き写すポイントを指定した板書を生かす

- ・囲み線や色分けを行い、ノートに書き写す部分を明確化する。
- ・板書の中でノートに書く部分にマグネットで印をつける。

##### ドリル用ノートなどノートの使い方の工夫を生かす

- ・教科書のページに合わせて、黒板を区切って板書し、一度にたくさんの量を書かなくても済むようにする。
- ・日付やページの記入の方法は前もって決めておく。
- ・図や問題番号などが印刷されている市販のドリル用ノートを活用し、問題とノートの書く場所が自分で確認できるようにする。



【指差してドリル用ノートに問題を解く】

### 通級指導教室等での取組

#### ●見通しをもってノートに書くための工夫

##### 書き写すポイントを指定した板書の工夫

- ・ポイントをしばって書かせ、ノートに書く量はできるだけ少なくする。

##### ドリル用ノートの工夫

- ・どこを書き写せばよいかを指示しながら書かせる。

### 成果

#### 書き写すポイントを指定した板書を生かした実践

- ・黒板や黒板の周辺から必要でない情報や刺激をできるだけ減らしたり、白・黄色等の明るくはっきりした色のチョークを使用したりした。また、板書を線で囲ったり、色分けしたりして、大切な部分を明確化することにより、児童がどの部分を書くか分かりやすくなり、時間内に板書を写すことができた。



【囲いや色で写す部分を分かりやすくした板書】

#### ドリル用ノートを生かすなどノートの使い方の工夫

- ・教科ごとにノートの書き方を統一し、学習の流れをつかみやすくなった。
- ・ノートに書くときは、書き始める位置を指定し、板書を書く部分を明確化することにより、他の子どもと同じようなペースで学習に取り組めるようになった。
- ・ドリル用ノートを活用し、指差しをしながら問題を解かせることで、ドリル以外の教科書の問題でも確認しながらできるようになり、解き忘れが少なくなった。また、学習内容に集中できる時間が少しずつ増えてきた。



### ポイント

- ★大事なところは、チョークの色や囲い文字などの視覚的な補助を入れた指示をすると、ノートをていねいに書くことができる。
- ★板書を見て授業全体の流れを分かりやすくしたり、ノートと板書の関連を図るようしたりすると、迷わずにノートに写せるようになる。
- ★写す量を少量に分けることで、落ち着いて授業に取り組むことができる。

自分の思いを表現することができるように

— 「心のものさし」を使った支援を通して —

### こんな子たちです（小学校4年生）

- ・話し合い活動や発言のときに、自分の気持ちや考えを分かりやすく相手に伝えることが苦手である。
- ・相手の立場になって考えることが苦手である。

### 通常の学級での取組

#### ●気持ちを表す取組

##### 「心のものさし」を生かして

- ・「心のものさし」（心の様子を表したハートマークを2色の色の割合で、視覚的に表すもの）で気持ちを表す。
- ・色を塗った「心のものさし」を見ながら、その理由を文章で表す。
- ・拡大した「心のものさし」を使って、自分の気持ちを表しながら、自分の言葉で発表する。



【「心のものさし」の説明】

### 通級指導教室等での取組

#### ●気持ちを表す工夫

##### 「顔マーク」で気持ちを表す工夫

- ・気持ちを発表する場面では、そのときの気持ちを「顔マーク」で記述した後、自分の言葉で伝えるようにする。



うれしい ・ ふつう ・ かなしい

【活動後を振り返る「顔マーク」】

### 成果

#### 「心のものさし」を生かした道徳の実践

- ・自分の考えを伝えることが苦手な子どもも、「心のものさし」に色を塗ることができた。
- ・「心のものさし」に色を塗ることにより、気持ちを考えやすくなり、自分の気持ちを文章で表すことができるようになった。



【「心のものさし」に色を塗る】



【「心のものさし」を見ながら理由を文章で表す】

- ・拡大した「心のものさし」を使うことにより、自信をもって発表することができるようになってきた。
- ・「心のものさし」を使うことにより、二択ではなく、自分の心が「行動をする」か「行動をしない」かのどちらに大きく傾いているかを可視化することができる。



【「心のものさし」を使って発表する】

### ポイント

- ★自分の考えをうまく伝えることが苦手な子どもに対して、「心のものさし」などを用いることで、自分の気持ちが可視化されて分かりやすくなり、自分の考えをまとめたり、発表したりすることができるようになる。

